

生理の貧困に対する白石市の対策について

大森 貴之



〔質問〕「生理の貧困」とは、生理用品を買うお金がない、また、利用できない、利用し難い環境にあることを指し、多くの国で問題になっている。

日本でも「生理の貧困」が潜在化していることが明らかになってきているが、この問題に対する認識について伺う。

〔答弁〕〔市長〕新型コロナウイルスウィルス感染症の影響もあり、経済的に困窮し、生理用品を購入するのに苦労している女性や、生理用品を買ってもらえない子どもが存在が社会問題となりつつあることは認識している。

〔質問〕女性の負担軽減の観点から、生理用品の用意が難しい方に提供を推進すべきと考えがいかかがか。

〔答弁〕〔市長〕経済的に困窮する女性などを対象とした支援として、生理用品を無料で配布するための予算を計上しており、適切に提供したいと考えている。

〔質問〕生理用品の配布場所や方法について伺う。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕各小・中学校保健室、子育て世代包括支援センター、ふれあいプラザ、社会福祉協議会の窓口に設置し配布したいと考えている。

〔質問〕配布する際のプライバシーの配慮について伺う。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕配布場所にはポスター

と提示カードを設置し、窓口で声を出さなくても受け取れるように配慮したい。

〔質問〕小・中学校では既に、保健室にて緊急時などの必要に応じ、提供している。

保護者にもそのような体制が整っていることを周知してはいいかか。

〔答弁〕〔教育長〕今後、保護者にも適切に情報を提供していきたいと考えている。

◎自己水源取水量の確保について

〔質問〕人口減少を食い止める上でも、十分な水の確保が保証されていることが、基本的なまちづくりにとっては不可欠である。

自己水源量の確保を強く要望するが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕自己水源での水利権・水量の変更や、施設整備についても今後、検討していく。

学校施設構築物の安全管理について

高橋 鈍齋



〔質問〕去る4月27日、白石第一小学校の校庭で防球ネットの木製支柱が折れ、児童2名が死傷する大変痛ましい事故があった。

市長はこれまで市民に対し、どのような説明をしたのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕市民の代表である市議会議員に対し全員協議会を開催し、「安心・安全であるべき学校で絶対にあつてはならない事故が発生した。一度とこのような事故があつてはならないとの思いから、教育委員会に事故調査委員会の設置を要請した。」との説明をさせていただいた。

〔質問〕今後の教育委員

会の対応について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕先日、第1回目の事故調査委員会の会議を開催したところであるが、事故調査委員会では、事故原因の究明と再発防止策について議論を行い、答申をいただくこととしている。

また、教職員対象の安全点検研修の実施や点検方法の見直しなど、答申を待たずに改善できる取り組みを進めている。

〔質問〕保護者説明会に市長、教育長の出席がなかったと聞くが、その理由を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕保護者説明会の目的は、学校が把握した事実を保護者に説明することである。

教育委員会と学校は、共に教育の振興を図る

目的を持つが、立場や役割は異なっており、保護者説明会の時点では、行政の代表が出席する段階にはなかったものと考えている。

〔質問〕再発防止に向けて、7月までに各学校の安全担当教員を対象にした、学校設備の安全点検の研修を実施することだが、これは1校につき1名の教員を対象とするのか。

〔答弁〕〔教育長〕法の定めにより、現行法では学校施設設備などの安全点検の責務を有するのは学校である。

学校からは管理職と安全担当教員の2名を要請し、幼稚園などからも園長や主任などに参加いただき、研修会を実施する予定で計画を進めている。

〔その他の質問〕

◎公立刈田総合病院に

ついて
◎スパッシュランド
しろいしについて